

(個人用)

行政視察等報告書（個人用）

令和 5 年 10 月 19 日

知立市議会議長 様

報 告 者	那須幸子
日 時	令和 5 年 10 月 12 日～13 日
視察（研修）場所	青森県八戸市
目 的	第 85 回全国都市問題会議

大会テーマ 【文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展】

～1 日目～

◆開会式

◆基調講演 「アート役割って何だろう？」

日比野克彦氏 東京藝術大学長、アーティスト

☆現代社会の中での人に対してのアートの働きの捉え方

*アートが人に及ぼす機能、可能性

①アートとは生きる力

- ・アートは、人が人らしく生きていくために重要な役割。
- ・イメージする力、想像力

②アートとは多様性ある社会を築く基盤

- ・他者との違いがその人の個性になるというアートの価値観。
多様な価値観の存在を認識できるフィールドになる

③アートは社会的な課題に対し持続的に取り組み続けていく大切なもの

- ・人のところを動かすことはアートの機能、役割、特性

- * ・想像力を備えているアートは人の生きる力になる
- ・ 1人1人の個性、価値観を持つアートは人をつなぐ者になる
- ・ 心に作用するアートは社会的課題に取り組む上大切なもの
- ・ 大きな力が世界を動かすのではなく、1人1人の異なった多様な思いが、時代を変化させていく

◆主報告 「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

熊谷雄一氏 青森県八戸市長

☆現在の取り組み

「はちのへ文化のまちづくりプラン~八戸市文化芸術推進基本計画~」
「八戸市スポーツ推進計画」

- ・ 2006年 「多文化都市八戸推進会議」の立ち上げ。
文化政策の新たな展開としてアートプロジェクト必要性が示された。
- ・ 2011年 「八戸ポータルミュージアムはっち」オープン
地域資源の魅力を創出・発信し、文化芸術、産業、観光、市民活動、子育て支援等の施策を一体にした施設
- ・ 2019年 「八戸市長根屋内スケート場 YS アリーナ八戸」オープン。
防災拠点機能を持つ
- ・ 2020年 「フラット八戸」整備。
アイスリンクが半日でバスケットボールコートに転換可能
- ・ 公営のブックセンター「本のまち八戸」
地元の民間書店間のネットワークづくり
書店員の学びと情報交換の機会づくり
- ・ 八戸市美術館「ジャイアントルーム」
美術に関心のない人にとっても居心地の良い場所としての機能

*成熟社会への価値観の転換を前提としたまちづくりのあり方として

- ・ 互いの顔や活動が見える空間づくりにより、コミュニティ感覚を熟し、誘発される交流から良い社会を作るイノベーションが生まれる
- ・ 社交、スポーツ、文化の享受、多様な価値を取り戻すこと
- ・ 文化とスポーツは、元来、内に閉じるのではなく、他者と交わり外へ開いていく性質を持つ

◆一般報告 「まちづくりの活力は

地域に根ざした文化政策から育まれる」

吉川由美氏 文化事業ディレクター・演出家

☆2011 年 2 月

- ・「八戸ポータルミュージアム はっち」開館。

市民を主体とするさまざまな活動の拠点

- ・プロジェクトの立案

- 1 中心市街地を関心空間にする
- 2 フラットなコミュニケーションの場を創る
- 3 地域資源の価値をみんなで見出す

- ・「はっち流騎馬打毬」ロボットづくりとトーナメント。
- ・「デコトラヨイサー」
- ・「DASHIJIN」山車飾りで彩られた自転車動力のメリーゴーランドのある遊園地の制作

＊地域の活力と魅力の源泉は“地域の文化”

- ・デジタル上では誰もがグローバルに最先端のアートと出会え、誰もが名立たる表現者になるチャンスに恵まれている時代、分子としての文化政策より分母を支える文化政策が求められている。

◆一般報告 「標高差 1,500mの地勢を活かした

スポーツ・ツーリズムの創出」

花岡利夫氏 長野県東御市長

☆東御市は平成 16 年に東部町と北御牧村の 2 町村が合併して誕生した市

- ・長野県の東部に位置し東西 14,7 km、南北 16,5 km、総面積 112,37 km² 人口約 3 万人。
- ・平成 30 年 文化芸術行政とスポーツ行政を市長部局へ移管。
「東御市スポーツ推進計画」、「東御市文化芸術推進計画」の策定。
- ・標高差の特徴を活かし「ワイン醸造」「高地トレーニング」

- ・平成 29 年 11 月 国内最高地点の全天候型 400mトラック完成
- ・令和元年 10 月 屋内プール「GMOアスリートパーク湯ノ丸屋内プール」完成
(日本水泳連盟公認規格)
(日本オリンピック委員会水泳競技強化センター認定)

- ＊・地域資源を活用し、高齢者モデル施設「ケアポートみまき」「身体教育医学研究所」など障がいの有無に関係のないスポーツ普及活動など地域の課題を地域の資源として活用している。
- ・地域の欠点をそのまま欠点として捉えず、個性として認識し、資源として活用したことで、今では水泳関係者の中で知らない人はいないといっても過言ではない状況ができています。

◆一般報告 「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」

鈴木秀樹氏 株式会社鹿島アントラーズ F C
取締役副社長

☆ ①全国に広がるプロスポーツクラブ

J リーグの加盟クラブ 60 など全国に 100 を超えるプロスポーツクラブが存在する。プロスポーツクラブの存在は住民の心理面、経済面を合わせて地域を豊かにし、人々の心象風景を変えまちの姿を変えるちからがある。

②鹿島アントラーズと地域とのつながり

2022 年に策定した、第四次鹿嶋市総合計画にアントラーズとともにまちづくりを進めると明示してあるのは重い意味を持つ。

③地域の社会課題解決

- ・プロスポーツクラブは多種多様な企業、人材とつながっている
- ・自治体がクラブの幅広いネットワークに目を向ける
- ・単なるスポーツ興業団体としてではなく、地域を変える機能を備えた装置として捉える

- ＊ ・ どのスポーツクラブも地域に根を張り、地域とともに生きていこうとしている。
- ・ 地域の活性化、発展がクラブの存亡に関わる問題であると認識している
- ・ 地域の貴重な資源であるプロスポーツクラブの有効活用を進める事は自治体だけではできないことが可能になる。
社会を解決し、まちづくりを推進することができる。

～2 日目～

◆ パネルディスカッション

テーマ「一巡した文化芸術を活用したまちづくり」
～自治体文化行政から魅力的なまちへ～

★ コーディネーター

小林真理氏 （東京大学大学院人文社会系研究科教授）

★ パネリスト

今川和佳子氏 （合同会社 imajimu 代表取締役）

松橋 崇史氏 （拓殖大学商学部教授）

瀬重 秀一氏 （静岡県沼津市長）

山崎 善也氏 （京都府綾部市長）

今川和佳子氏

- ・ 市民のマンパワーが人をつなぐ
アーティストと市民、八戸ならではの文化をテーマに、掛け合わせることで無数の発見と人のつながりが生まれた。

松橋崇史氏

- ・ スポーツは地域活性化と多様性を体現する
多様な人々の活躍を目指す地域にとって、多様な人々のスポーツ実施環境を構築することは、重要な課題。

瀬重秀一氏

- ・ スポーツとアニメを活用したにぎわいづくり
民間の活動のサポートとして、広報紙や SNS を通じて事業者等の取り組みを発信し、市民への応援機運醸成を図っている。

山崎善也氏

- ・文化芸術・スポーツで紡ぐまち、市民一人1文化1スポーツの推進
多くの市民が文化芸術に触れ親しみ、感動や生きる喜びを感じることを目指している。

◆閉会式

◆所感

第85回全国都市問題会議は10月12日、13日の2日間にわたり青森県八戸市八戸公会堂において「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」をテーマに全国より約1800名の参加者を得て開催された。

八戸市は面積約305㎢、人口約22万人の中核都市、又全国有数の水産都市、東北有数の工業都市、国際物流拠点都市です。

多様で自主的な市民による文化活動を「多文化」と位置付け、中心市街地活性化という地域課題に対し、意図的・段階的に魅力的な施設整備と丁寧な事業展開を推進しています。

ものづくりスタジオ、インキュベーション機能や子育て支援機能も有する「八戸ポータルミュージアムはっち」コミュニティースペースとして機能する「八戸まちなか広場マチニワ」全国初の公設書店として注目されている「八戸ブックセンター」、様々な機能に特化した個室群を擁する「八戸美術館」など魅力的な施設の紹介があり、「中心街をみんなの関心空間に」という言葉が印象的でした。

その施設すべてが市民参加型であり、市民と共につくり上げた施設でした。建設の際には市民から大きな反対もありましたが、市民との粘り強い対話を行い、現在は市民の憩いの場、交流の場になっております。

文化スポーツは市民の生活に豊かさや潤いを与え人と人とのつながりを作り、多様性が生まれ、生きる力そのものであると考えます。改めてアートの役割、そしてスポーツのもつ力の必要性を感じました。

本市においてもたくさんの文化芸術があります。このような文化芸術を守り、育て継承していく施設やしくみを強化していくことが必要だと考えます。

知立市の歴史文化を持続可能なものにするためにも、地域の絆をより深くしていくことが重要だと改めて感じ、八戸市の取り組みを参考に、本市の特性を活かし、知立市の更なる活気あふれるまちづくりに努めて参ります。